九州新幹線軌道敷設 安全祈願祭

開通に向け、最終段階

九州新幹線鹿児島ルート新八代－西鹿児島間の軌道敷設工事安全祈願祭並びにレール送出式が11日、鹿児島市の西鹿児島駅新幹線軌道基地内で行政や工事関係者ら多数が出席して行われた。

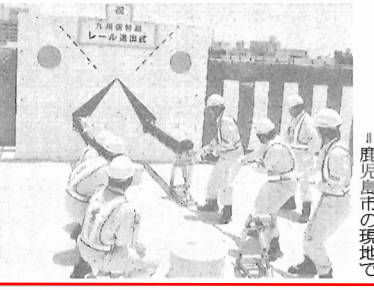
安全祈願祭では、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の高山博文局長、九州旅客鉄道㈱鹿児島支社の江村康博支社長、赤崎義則鹿児島市長をはじめ、施工者の三軌建設㈱の江本昭彦社長ら関係者が次々に玉串を捧げ、工事の無事故無災害を祈願した。

高架橋上部に場所を移して行われたレール送出式では、高山局長や江村支社長ら7人が紅白のテープにはさみを入れた後、軌道に敷設するレール（60kg／m）を作業員が40㍍ほど送り出すと、出席者から一斉に拍手が上がった。

直会の席上、高山局長が「新幹線開通に向けて最終段階に突入した。地元住民の期待に添えるよう努力して参りたい」と挨拶。また、赤崎市長も「郷土の経済浮揚の要となる新幹線開通を心待ちにしています」と言葉を贈った後、江本社長が「安全に留意して、1日も早い完成に努めて参りたい」と決意を述べた。

同工事は、終点となる西鹿児島駅から日置郡市来町の塩鶴トンネルまでの約22㌔において軌道の敷設及びレールを敷設するもので、主な施工内容としてはスラブ敷設やCAモルタル注入、レール敷設を行う。平成15年末には出水駅－川内駅間（32㌔）、川内駅－西鹿児島間（34㌔）が1本のレールでつながり、新八代－西鹿児島間の16年春の供用開始を目指す。

算基準の改定等の説明があった研修会
＝指宿市の指宿建設組合会館で



テープにはさみを入れる関係者（上）と敷設するレールを送り出す作業員
＝鹿児島市の現地で

県建設業協会指宿支部 技術者研修会

適正化法等を詳説

県建設業協会指宿支部（小牟礼純哉支部長）は11日、指宿市の指宿建設組合会館で県土木部との共催で14年度建設技術者研修会を開き、適正化法と県の取り組み、建設リサイクル法、積算基準の改定などの説明に参加者らは熱心に聴講した。

研修会は、県土木部と県建設業協会が共催で、近年の建設土木技術の進歩に伴い、設計、積算、施工のマニュアルが多種複雑化してきたことから、建設業の技術者を対象に講習の場を設けて技術・技能習得し、地域社会に貢献してもらうために、年1回行われているもの。

冒頭、指宿土木事務所の野間順一所長と、小牟礼支部長が「今後も、地域社会のために十分な品質管理、出来高管理等施工管理がなされ、質の良い仕事をしていただき、更なる技術の向上に努めていただきたい」と本日の分理解し、今後の技術向上に活かしていただきたい」とそれぞれの立場から挨拶。

続いて、県側から県土木部技術管理課の兒島優一技術主査、県建設業協会からは重留政行業務部長による①適正化法について（本県の取り組み、施工体制の確保など）②13年度土木工事の検査結果について（工事検査、施工内容、施工管理）③工事における諸問題（建設リサイクル法について）④工管理について（共通仕様書について）積算基準の改定－などについて講義があり、参加者の中には熱心にメモを

鹿工就業体験生が県建築協会等と懇談

貴重な経験を将来に

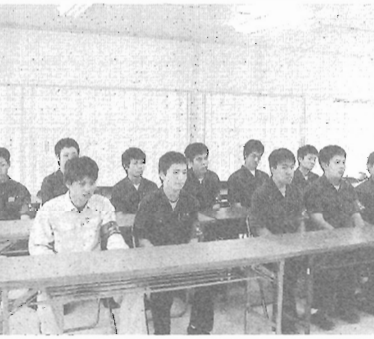
鹿児島工業高校生建築系生徒による就業体験学習2日目の11日、鹿児島市上福元町の県立開陽高校新築現場では県建築協会研究開発委員会、施工現場所長らと生徒との懇談会があり、双方から体験学習を半分経過しての意見・感想を述べ合った。

同日昼に開かれた懇談には、協会側から羽月信雄副会長、千原弘研究開発委員長、横村満昭同副委員長と、有馬洋一開陽高校長、3人、それに体験学習生徒のうち11人が出席。

協会、現場事務所から「現場の実際の状況を身をもって体験して頂きたい」「3日間は短いが、何かをつかんでほしい」「建築に夢を持って」などと激励。生徒は「学校の授業や現場見学会では味わえないものを体験できる」「現場監督志望なので、暑くても頑張りたい」「進学予定だが、貴重なインターンシップになる」などと語った。

体験学習後半は、仮設計画、枠組足場材の組み立て実習、型枠工事、アルミサッシ施工などを学ぶ。

開陽高校新築は1工区が前田組・深野木組・内門工務店JV、2工区が前屋敷組・水口建設JV、3工区が渡辺組・中山建設JV。また、この体験学習は、西伊敷住宅43号棟新築（水口建設）、三和住宅21号棟新築（鹿大丸建設・内門工務店JV）、鹿児島南高校屋内運動場改築（吾場建設・吉見工務店・ヤマグチJV）、警察武道館（仮称）新築（中央建設・鹿大丸建設JV）、県民交流センター（仮称）新築（鹿島建設・戸田建設・春田組・新牛組・内村建設JV）でも行われている。



現場事務所で体験学習の感想を述べる生徒
＝鹿児島市上福元町で

吉村工業安全大会

人命尊重を基本理念に

吉村工業㈱（吉村三男社長、姶良郡霧島町）は11日、霧島町建友会館で14年度吉村工業㈱労働安全衛生大会を開き、社員や協力会社など約50人が出席して、人命尊重を基本理念に重

社員に一人ひとりが自覚を一と挨拶する吉村社長
＝霧島町建友会館で

を開き、社員や協力会社など約50人が出席して、人命尊重を基本理念に重

大災害を撲滅することを誓い合った。

大会の冒頭、吉村社長は「従業員一人ひとりが会社を背負っている事を自覚し、いい仕事をすることが地域社会への恩返し。ちょっとした気遣いや余裕を持つことで事故は防げるもの。原点に立ち返り、帰りを待つ家族の顔を思い浮かべて、無事故無災害を心に刻み付けてほしい」と挨拶。

岡元和治総務部長、緒方和文工務部長、吉村清和品質管理部長が、各部門ごとの年度目標としてそれぞれ「文書管理の徹底」、「安全意識の向上」、「品質システムの向上」を図ることを発表した。

山雅年さんが「人命尊重の基本理念に立ち、不安全行動の阻止、安全意識の向上を推進することを誓います」と力強く宣言した。

続いて、東京海上火保険㈱国分支社の雑貨殿支社長代理が、改正道交法や交通事故に関する責任等について説明。また姶良郡医師会の竹田克姑竹田医院院長も、健康診断の大切さや結果の見方、生活習慣病の怖さを説いた。

最後に吉村敏尊務が「心身ともに健康であることが安全につながる。ルールを守り、安全行動を」と閉会の言葉を述べ

消防設備士試験準備講習会

合格期し、115人が受講

県消防設備安全協会（吉木禎厚会長）は11日、鹿児島市の県市町村自治会館で8月4日に行われる14年度消防設備士試験の準備講習会を開き、115人が出席して消防関係法令や機械電気の基礎知識などテキスト等を参考に受講した。

講習会の冒頭、床次龍一事務局長が「試験では、消防関係の法令や機械電気の基礎知識、設備の基準など広範囲にわたり出題が予想されます。各講師がポイントを絞って説明致しますので真剣に取り組み、一人でも多くの方に合格してほしい」と挨拶。

引き続き講習会に入り、午前の部では田中博文鹿児島市消防局予防課主幹が「消防関係法令」、久池井勝九州電気保安協会鹿児島支部技術課防災担当課長が「機械の基礎知識」について講義を行った。

なお、2日目の12日も甲・乙種4類と乙種7類の講義が行われる。

試験に備え受講する参加者
＝鹿児島市の県市町村自治会館で